

# 続・八幡川 歴史探訪 ガイドブック



【八幡地区～五日市地区】



## 【参考文献】

- 「五日市町誌」 五日市町
- 「五日市町博士館年表」 五日市町教育研究会
- 「いつかいちの民具が語るむかしのくらし」 五日市町民生活の会
- 「いつかいちの樹木」 五日市公民館
- 「いつかいち歴史の散歩道」 五日市中央公民館
- 「ふるさと再発見」 八幡公民館
- 「八幡川にかかる橋のふしぎ」 八幡南公民館
- 「いしうち年表体跡土史」 石内公民館
- 「さえき区歩道」 広島市公文書館
- 「古路・古道調査報告」 広島市教育委員会
- 「石仏石神等民間信仰調査報告」 広島市教育委員会
- 「郷土見往来日記・阿蘇郡図」 広島市中央図書館
- 「井口村史」 広島市
- 「ひろしま歴史の散歩道」 広島市観光協会
- 「河岸の戦史・八幡川」 広島市教育委員会
- 「『88町勢要覧・いつかいち』 五日市町
- 「五日市町の文化財」 五日市町教育委員会
- 「ぶらり散歩」 中国新聞社

【編 集】 やはたがわまっぶくらぶ:歴史探訪グループ  
【発 行】 広島市佐伯区役所  
【協 力】 広島市五日市公民館 広島市八幡公民館

発行年月 2003年(平成15年)3月

このガイドブックは、2001年(平成13年)3月発行の  
「八幡川ウォーキングマップ」と合わせてご利用ください。  
また、2002年(平成14年)3月発行の  
「八幡川歴史探訪ガイドブック」【八幡川の源流～河内地区】の続編  
として、八幡川の中流や下流の歴史探訪にご利用ください。  
わたしたちの住む佐伯区にも美しい所やいろいろな人の暮らしがあります。  
是非、先人の生きた知恵を未来のために生かしていきたいものです。

【広島市佐伯区】

# 八幡川の流れ

八幡川  
歴史探訪  
ガイドブック

## 八幡川の流域

八幡川の源流は佐伯郡湯来町砂谷地区の赤土地で、廿日市市の北部と西区の一部を含み、佐伯区の大半を流域に持ちます。湯来町域を源流域とし河内地区を上流域とし、支流の荒谷川と石内川の合流地点に沿う八幡地区を中流域とし、それより南の五日市・皆賀の地区間から河口部を下流域としています。源流や上流には里山や棚田を見ることができ、中流や下流には市街地や住宅地が広がって、主要自動車道や鉄道が東西に通っています。八幡川の地名の由来は、八幡地区の旧中須賀村にあった八幡神社(ヤハタジンジャ)によると言われていますが、上流では河内川の名称が用いられていました。

- 河川延長(河川法に基づく二級河川区間):20.1km
- 流域面積(雨水が河川に流入する区域):83.0㎢

## 八幡川の支流

**保井田川**  
(ホイダガワ)  
檀楽寺山東丘陵部から発し、谷間を急流で下った後に、五日市地区の笛免で本流と合流しています。昔は穂井田とも呼ばれ、保井田薬師堂も祭られました。



保井田川

**石内川**  
(イシウチガワ)  
西区山田地区の西の鬼ヶ城山北麓から発し東流し、佐伯区石内地区で北流の後に原田にて西に方向を変えます。さらに数本の支流を併せて南流し、五日市地区の落合で本流と合流しています。谷間や河原に露岩が多く見られ、それらの中を下るため河川名となったと言われます。



石内川

**皆賀川**  
(ミナガガワ)  
皆賀地区東の鈴ヶ峰に発し西流し、皆賀橋にて本流に合流しています。昔は水長村と呼ばれ、谷間の流れと入江の海とで、細長い地形になりました。

## 八幡川の流域



## 八幡川の歴史 ①

年	開発と災害
B.C. 200年代	八幡地区の低地帯と五日市地区の平坦部は海で覆われていました。
A.D. 900年代	八幡地区以南の狭長な入江に砂礫などが堆積し陸地となりました。
A.D. 900年～1600年	JR山陽本線付近までデルタ化し陸地となりました。現在の古川筋や瀬戸の川一帯に旧河川跡が残りました。江戸時代初期に海老塩浜が干拓造成され増田経営が行われました。
1600年代初期	八幡川の河道の付替え工事が行われ五日市と皆賀の丘陵部が開墾され現在の流路となりました。水長村はやがて皆賀村となりました。
1651年(慶安4年)	八幡川沿いの寺田村に井環を設け五日市用水路が建設されました。
1797年(寛政9年)	岡城山が八幡川沿いを通り八幡川・寺田・宮島呂・河内峠を訪ね歩き「郡志見往来日記」と「郡志見往来諸勝図」を著しました。
1883年(明治16年)	八幡川の水を動力に利用し「広島綿糸紡績会社」の第二工場が下小深川に開設されました。その後川坂周辺に商店街ができました。
1945年(昭和20年)	大蔵省造幣局広島支局が開設されました。貨幣の製造に八幡川の水が利用されました。戦後しばらく南に競馬場が開かれました。この年に枕崎台風により甚大な被害が発生しました。
1951年(昭和26年)	ルース台風により八幡川が氾濫し河内村・八幡村が甚大な被害を受け五日市地区も水浸しになりました。度重なる水害に対して河道の拡幅や土手の補修などの工事が徐々に行われました。
1955年(昭和30年)	五日市地区に竹之内浄水場ができました。
1964年(昭和39年)	八幡地区に北原浄水場ができました。
1971年(昭和46年)	八幡川に飛来する水鳥の捕獲が禁止されました。

## 八幡川の歴史 ②

年	開発と災害
1977年(昭和52年)	河内地区の白ヶ瀬浄水場から上水の供給が始まりました。
1981年(昭和56年)	河内地区の魚切ダムが竣工し水の本格的利用が始まりました。
1984年(昭和59年)	第1回八幡川リバーマラソンが開催されました。
1987年(昭和62年)	吉見園沖埋立て船上起工式が行われました。
1990年(平成2年)	石内川が建設省から「ふるさとの川」の認定を受けました。
1996年(平成8年)	八幡川河口右岸に「みずとりの浜公園」が完成しました。
1999年(平成11年)	6月29日に梅雨前線の活動で佐伯区・安佐南区・安佐北区に甚大な被害が発生しました。
2000年(平成12年)	3月24日に芸予地震が起り被害が発生しました。

(河内地区は「八幡川歴史探訪ガイドブック」[八幡川の源流～河内地区編]を参照)



昭和50年代の八幡川



昭和初期海老山からみた五日市



# 八幡川の往来

新・八幡川  
歴史探訪  
ガイドブック

## 古代山陽道

古代律令制度により制定された官道で、畿内と大宰府を結ぶ唯一の大路でした。影面道(カゲトモノミチ)とも大宰府官道とも呼ばれ、石内地区半坂から八幡地区利松を抜けて、五日市地区城山から観音地区三宅に至り、廿日市市平良に向う東北～西南の道筋でした。



影面道

## 西国街道

江戸時代初期に五街道に匹敵する街道として、京都から西宮に至り大坂からの山陽道と合流し西国に向い、下関から門司に渡り小倉からは長崎街道となり長崎に向う街道です。広島藩は西国街道＝西国路と言いますが、萩藩はじめ他藩は山陽道の名称を使っています。広島城下から西へと進み、間宿の草津宿から廿日市宿に至る間に、八幡川を渡り五日市を通り海老塩浜を抜けていました。



西国街道の街並

## 都志見往来

1797年(寛政9年)に、広島藩士で画家でもあった岡峴山(オカミンザン)は、芸北山県郡の都志見(ツシミ)にある駒ヶ瀬を見物する旅に出ました。彼は「都志見往来日記」と題し道中記をしたため、史跡や風物に独自の解釈を著しました。さらに「都志見往来諸勝図」に道中の風景をつぶさに描いています。八幡川・寺田・宮風呂・河内峠と、江戸時代の景観が手に取るようにわかります。



岡峴山「都志見往来諸勝図」  
寺田

5

## 「都志見往来日記」からの引用

「前略、夫より汗馬を過ぎ八幡川の橋を渡り、道を右にとり北に向ひて行く、右に八幡の社あり、保井田村に至り庄屋四郎左衛門の所に昼休す、下略」  
「都志見往来諸勝図」の汗馬から八幡川へは西国街道を通り、八幡川を渡り保井田村から寺田に向いました。



岡峴山「都志見往来諸勝図」  
八幡川

## 沼田野往来

西国街道の三筋橋から北に三筋川を渡り八幡地区利松の郡橋へ至り、石内川に沿いほぼ古代山陽道を通ります。旧沼田郡の古市で出雲石見街道と結ばれ、八幡川と安川の流域は車馬が行き交いました。石内地区原田から旧沼田地区伴へは、草津から浜田へ至る石州往来が重なり、浜田藩の重要往還となり山県郡地域へ結ばれました。かつて八幡地区に廿日市からの一里塚がありました。



郡橋

## 国道の新設

1873年(明治6年)に近世の西国街道が新道に移設され、1880年(同13年)に国道一等路線に指定されました。1889年(同22年)には広島～廿日市間に乗合馬車が開設され、1932年(昭和7年)には南へ観光道路が新設され、現在の2号線となりました。



昭和10年頃の国道2号線

6